

目指すべき行財政運営の姿（論点）

地方財政は、人口減少・少子高齢化や地方交付税の減少等を背景に厳しさが増している。

一方、社会経済情勢や時代ニーズの変化から、これまでのやり方では対応が困難な様々な行政課題や地域課題が生じてきている。

そこで、将来にわたり、市民の安全・安心を守り、新しい行政需要への対応や未来に向けた投資もできる持続可能な行財政運営を実現するためには、今の行財政運営のあり方を抜本的に見直しする必要がある。

そのためには、どのような姿を目指すべきか・・・・・・・・

3つの論点

1 組織・人員体制

《業務効率性と労働生産性を高め、質の高いサービスを提供できる体制を実現》

- ・組織力が最大限発揮できる体制
- ・AI や IoT などの新しい技術の活用、新しい発想の導入
- ・職員の能力とモチベーション

2 事務事業、公共施設

《限られた経営資源（ヒト、モノ、カネ）の選択と集中》

《負担とサービスのバランスのとれた行財政運営》

- ・ 公共施設の配置や規模
- ・ 未来への投資や補助金の方向性
- ・ 負担とサービスのあり方
- ・ 質の高いサービスの効率的な提供

3 市民、NPO、企業等の参加・協働

《公共サービスの担い手や公共資産の活用に民間企業や市民等の参加を促進し、新たな価値を創造》

- ・ 公共サービスの担い手
- ・ 防災、地域活動等
- ・ 公共施設、公共資産
- ・ 共生する組織体制